

(3) 学校造園教育研究会

会 長 武田 博文 (利岡小)
副会長 浜口 和彦 (中村中)
事務局 島田 敏和 (西土佐小)

1. 研究主題 「よりよい学校環境を目指して」

2. 研究過程

実施年月日	研 究 の あ ら ま し	会 場	備 考
R6. 8. 2 (金)	○夏季研修会 「庭木の剪定方法について」(説明・実技) ※講師：池田造園 池田 道一さん	利岡小学校	7名参加

3. 今年度の取り組み

○夏季研修会 8月2日(金) 利岡小学校

本年度は利岡小学校を会場に、この十数年来お世話になっている池田造園の池田 道一さんを講師にお招きし、庭木の剪定方法について指導を受けながら実習を行った。

研修は、利岡小学校のプール北側の築山を実習場所にして、つつじや紅葉の剪定方法の説明をひとつずつ受けながら、実際に剪定ばさみ等を使って1つひとつの庭木の形を整えていった。

基本的な剪定方法としては、「長い目で見て、どこを剪定してどこを残すか考えながら剪定していくこと。」「将来を見越し、樹木の背が高くなりすぎないように、下枝(下芽)は残すこと。」「葉の付いた節のすぐ上で剪定すること。葉がついていない場合も、節のすぐ上を剪定すること。」「仕上がりも含め、剪定しながら、時々1回離れて遠くから見ることも大事。子育てと一緒。」「のこぎりの切り口からは新しい芽は出ないので、必ず剪定ばさみできれいに切っておくこと。」「思い切って切ってもよいが、強剪定は3月・4月頃が良いこと。10月過ぎはよくないこと。」「重なり枝や枯れ枝をとりながら、伸ばしたい方向の芽の上で切るとよいこと。」

等を教わりながらの実習となった。8月の暑さの中、参加者はみんな汗をかきながらの研修であったが、本年度もきれいに整えられた利岡小学校の築山を見て大満足の研修となった。

その他にも下記のようなお話があったので、箇条書きしておく。

- ・剪定ばさみは、必ずグリップを持つ必要はなく、真ん中あたりを持って剪定してもよいこと。
- ・道具は使ったらしっかり研ぐことが大切なこと。内側は洗うのみ(研いでしまうと重なりが悪くなる。)とし、両外側を砥石で研ぐようにするとよいこと。
- ・腕の大きさ以上の枝を切る際には注意が必要なこと。



4. 今年度の成果(○)と課題(●)

○本年度も少ない人数(7名)ながら、充実した研修を行うことができた。

○専門的なプロの指導や助言をいただけることで、個々のスキルアップに着実に繋がっていている。

●それぞれが作業をしながら、講師の先生にアドバイスや助言をもらうだけでなく、ゆっくり時間をとってみんなで話を聴く時間があってもよい。(来年度は工夫して実施)